

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	平成29年6月29日	評価結果市町村受理日	平成29年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=trus&izvosvoCd=2192800064-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・平成28年より、空床利用を生かした、短期利用共同生活介護を開始した。居宅支援所より紹介を頂き、1名の方が利用され、その後は本人の想いを伺いながらご家族と相談し、入居の運びと繋がった。</p> <p>・施設全体の行事を増やし、特養のゲストとの触れ合いはもとより、外部の方、ボランティア、地域の方、行政の方など、声を掛け参加を募ることで、孤立感のない生活を目指しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、山間の自然環境に恵まれた地域に立地している。地域住民やボランティア、行政と連携しながら、地域資源の活用などに積極的に取り組み、利用者に孤立感が生じないよう支援に努めている。近くの温泉から源泉を調達して足湯のイベントを行ったり、魚協からは、全国ブランドの鮎の差し入れがある。併設の歯科医院は、必要に応じて嚙下内視鏡検査を行い、栄養管理と合わせて、筋力や機能の向上に成果を上げている。管理者は、職員が働きやすいよう勤務環境を改善し、技能の向上には、年間計画の育成カリキュラムに沿って行い、チームケアの総合力が発揮できるように取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ステーションに掲示して、常に意識しながら日々利用者に向き合って満足していく支援をしている	全職員で理念の意義を共有し、標語は目立つ位置に掲示をしている。利用者が、日々地域と関わりながら生きがいを持ち、笑顔を絶やさず、輝いて暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の美化清掃活動、祭礼に参加する他、利用者も地区の夏まつりや敬老会に参加している また職員のうち数名は同地区内に在住している	地域の居宅事業所との人的交流が定着している。併設の歯科医院の受診者が立ち寄りたり、地区の行事参加で、馴染みの関係ができています。小学生と高校生との交流を継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者側から出向き、独居生活の居宅など訪問し生活の状況等、話を聞くことで施設の事も知って頂けることができています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催される運営推進会議では行政、民生委員、家族代表、知見を有する方に出席頂き、要望や相談を聞き入れ事業運営に生かしている	会議では、運営の現状や外部評価へ取り組みを報告し、意見を交わしている。行政担当者からは、制度や地域の高齢化率についての情報を得ている。夜勤者確保の課題と対策も話し合い、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議(3ヶ所)に出席し、施設の実情を伝えると共に地域の現状を把握しながら協力関係を築いている 日頃から連絡を頻繁に取っている	市主催の地域ケア会議に出席している。特例の認証申請や介護人材確保等についても相談し、助言を得ている。困難事例は、直接窓口に出向き、密な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠のない暮らしが送れている 利用者本位で暮らせることを目的とし、身体拘束は行っていない	身体拘束を行わないケアを実践し、また、言葉かけにも配慮するよう徹底している。不穏な人には、症状が少しでも和らぐよう寄り添い、安心感につなげている。玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	長期間、同じ職員・慣れ親しんだ利用者だと、慣れがために発する言葉の虐待ともとれるようなことが見落とされている事があるが、発見時は即、注意をして改善に努めている		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々、独居、家族が遠方に住んでいるというケースが増えている 入居時に、必要性のある方には説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者が自宅又は、希望時に合わせ説明に伺っている 納得のいかれるまで説明を行い理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の施設での暮らしを毎月の手紙(写真付)で伝え、面会時には面会票記入欄や、意見箱の設置をして、意見の言いやすい環境づくりに努めている	季節ごとのイベントや、家族の訪問時を話し合いの機会としている。また、毎月発行の「元気館だより」と共に、個別に手書きの手紙を添えて、家族とのコミュニケーションを図っている。意見や要望があれば、速やかに対処をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議では事業等の現状を伝え、現状把握をした上で、今後の提案などの意見を聞いている また、2ヶ月に1度の全体会議で出勤可能な全職員の参加に伴い現状の報告会を開いている	定期的に、全体会議やリーダー会議を開催している。ケアの課題と個別対応、気づきなどを話し合い改善につなげている。さらに、職員の勤務調整や育成カリキュラムで意見を交わし、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得に法人として力を注いでいる。資格取得者は資格手当が厚くなり、向上心をもって働ける職場環境の条件が整っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(病院開催等)に参加している 外部講師を招いて、中堅研修を行い法人内の介護技術の基礎を固め、全員が迷うことなくそれに沿った介護を実践できるよう技術向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等に参加し、相互の活動の報告や提案事項などを話し合い、向上させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを明確に行い、思いを汲み取ることに力を入れ、不安なく利用で来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時、何で困ってみえるのかを調査し、施設でできる事を明確にして、お互いが納得し安心して頂けるように関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを聞き、本人が上手く思いを伝えられないときは、動作・状況を観察し、本人の動きやすい状況をつくり暮らしやすい対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここを我が家、第二の家と思って頂けるよう利用者本位の思いに添ったケアを目指している 人生の先輩としてのわきまえ、言葉使いにも気を配っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも行事への参加を呼びかけ、本人と一緒に過ごしていただける時間づくりをしている いつでも外出、外泊ができるよう伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話しから出る人の名前などは、家族に伝え、大切にしていることを話す 兄弟の所へ3週間の外泊をされたり関係が途切れないよう普段から連絡が取れるように心掛けて支援している	家族を含め、知人の訪問等が継続されるよう支援をしている。家族の協力を得ての外泊や、馴染みの場所へドライブを兼ねて出かけている。併設の小規模特養入所者とも、馴染みの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が傍で座って会話を楽しめるよう、また、ひとりで孤立することがないように配慮している。ただ、グループがあったり、どうしても1人がいい方には、職員の寄り添いを大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も地域でお会いした時は、スムーズに生活してみえるのか等、関係性を繋げている。 又、退去後は元気館での生活の写真、アルバムをお送りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない生活の場での発言を見逃さず、思いつきを汲み取るよう努めている。職員全員が把握出来るよう、各会議の場で担当が発言し、検討できる時間を設けている。	日々の生活や習慣、趣味、こだわりなどから、利用者の思いを把握している。それらは、個人ノートに記録し、職員全員で共有している。思いを伝えることが困難な人は、表情から汲み取り、穏やかに暮らせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを基に、今までの人生史を把し不明な所は、家族に直接聞きし、浸みのある物を取り入れることで、家庭での延長で安心して生活が送れる支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を細かく残し、発言などはそのままの言葉で記録し、又重要事項は特記事項に残し見落としの無いよう、統一しゲストが何を訴えているのか、いち早く築けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ゲスト、家族からニーズを伺い、ケアマネージャを中心に、担当者会議で、担当者からの意見を基に現状に合わせた介護計画を立て、実行しモニタリングを行い常により良い生活が送れる支援を目指している。	利用者のニーズは、日々暮らしの中で把握し、それらを家族が参加する担当者会議で話し合い、検討を加えている。生活機能、身体機能低下を軽減できるよう本人の歩行を支えながら支援し、役割を持って暮らせるよう、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前の勤務者からの申し送り事項を直接伺い、メモに残し一日のケアに落としこむよう努めている。特変事項などは上司へ連絡が常にとれるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々、生まれる事を重要とし職員同士で話し合い当日より取り入れられることは、即取り入れていき確実に申し送れることが重要と認識している		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊富な地域の中で、自然治癒力を目指し、畑の野菜作り、梅干し作り、地元の温泉を利用し施設内足湯デーの開催、山菜の収穫、料理と、楽しみに充実している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は併設の特養嘱託医に依頼し、定期受診を受けながら利用者の医療的相談にも対応していただいている。時には、主治医と家族が、面談や電話にて相談や、今後の方針などにも話し合っている。	かかりつけ医は、嘱託医に統一し、家族に同意を得ている。専門科への受診は、家族が担い、歯科は併設の同法人施設内にある。急変時にも、協力医療機関と連携し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師が、定期的に勤務に入りスタッフとの連携で、小さなきずきも記録し、相談できる協力体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	直接出向いて、担当看護師と情報の交換を行い、その情報を確実に、現場に伝えるよう、そのつど会議を開催し、受け入れ態勢を確実にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期時の説明をし契約を交わしているが、重症化した時、又看取り時期となった時主治医、家族を交えて思いを中心に考え方針を決定し職員は全員が共有し、支援に取り組んでいる。	重度化しても、生活可能な医療・看護・介護の連携を図り支援している。終末期にも、同様の体制で家族の希望に沿って取り組んでいる。契約時に、終末期支援の契約を交わし、実績を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は、必ず全員が、救急救命訓練を受講し実践に生かせる体制を作っている。実際の手順書は周知してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の、備蓄をしている。50人対応5日分の準備がある。又、地元の消防団からの人的支援も受けられるよう協力体制を築いている。	年に2回、消防署の指導の下、災害訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築いている。隣には、旧小学校舎があり、地域の避難場所に指定され、備蓄も整えている。	災害の種別に応じた、総合防災対策規定の見直しと、マニュアルの整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所が長いゲストには、馴れ合いが生じる事がある。丁寧な言葉で敬う事を心がけている。現場で発見した時は個々に即注意し、今後の業務に期待する。	職員は、常に介護の基本姿勢に立ち返り、相手を尊重する態度で接している。声かけをする時は、利用者の目を見て、分りやすいよう、短く簡潔に話すことを心がけている。また、慣れ合いにならないように、常に意識して対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゲストが話しやすい、個別ケアの時間も一日の中に取り入れ、また自己決定しやすいように、選択肢で選べる配慮も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間の睡眠状態、起床時間等、考えその日の体調に沿った生活時間を計画し本人の想いを取り入れ無理にない生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	手の届かない整容部分のお手伝いをさせて頂きながらおしゃれの声かけをし、楽しみに繋げている。また、外出支援として、服のショッピングにも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や昔からの、懐かしい物、好みをお聞きし懐かしい話をしながら一緒に作り、味わい、楽しいひと時の時間を過ごすことができる。	郷土料理を作る時は、利用者全員で関わっている。個々の嗜好にも配慮し、完食につなげている。職員も一緒に同じ食事を摂りながら、ゆっくりと味わい、楽しい会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の、個々の体重管理を行い、半年に一度のBMI測定のもと、必要に応じて補助食品や運動、筋力低下防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行い、月に一度の歯科衛生士の訪問診療も行い、口腔状態の把握と記録も留めている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録より、個々のパターンの把握し、早めの誘導に心掛けている。適切なパットを使用することで安楽な体制で生活頂いている。自然排泄の喜びを分かち合いながら成功につなげている。	個々の排泄パターンを把握し、声かけと見守りで自立を支援している。夜間は、利用者の状態に応じてパッドを選択し、声かけもやっている。生活リハビリで下肢筋力を改善し、自力排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足にならぬよう個々の身体状況に合わせた運動を行っている。飲食では、多くの野菜摂取に合わせて毎朝の牛乳とヨーグルトの提供を、行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりとした、気分で入浴頂けるよう、本人の想いに沿って入浴頂き、湯加減、羞恥心にも注意し、支援している。	入浴は、一人ひとりの希望や習慣、羞恥心などに配慮をしている。浴室の照明にも落ち着きがあり、ゆったりと楽しめるように工夫をしている。重度者は、併設施設の機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゲストの生活習慣や、身体状況に合わせて無理なく、休息出来るよう、声掛けを行っている。寝つけない時は、居室で傾聴したり、寄り添うケアのもと、安心して休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ゲストの担当者が決まっており、担当は必ず、薬の目的、効能等は理解している。その支援方法は全員に周知し、変化を逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員で、一つの目的に(昼食のお寿司づくり)を、行い達成感を味わい、喜びや生きがいにつなげている。個々の楽しみ、話好き、歌唱好き、将棋好きなど欠かさず行えることに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外の散策は全員が出かけられる様に、誘い方を工夫している。施設車両にて月に一度のドライブも計画し、行っている。旅行好きのゲストへは、家族の協力を得て、旅行に外泊され、その時の話をお聞きし、楽しみと生きがいへとつなげている。	周辺には、段差のない散策コースがあり、季節毎のイベント広場もある。季節の花見や道の駅での買い物、月に一度のドライブに出かけている。外泊や小旅行、外食などで、家族と外出する機会もある。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されることで、使用目的が明確でなくても安心されることは、誰でも当たり前のことと考え安心につなげる、家族には理解をえている。自販機では購入をすることができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部(家族、知人、親戚)との、連絡や世間話を大切に、いつまでも存在意識を確認しあえる手段の一つ、電話の掛けられる状態を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゲスト自身が、ここにいることが大切で必要とされている工夫をしている。全員で写っている写真の掲示と自身を確認できる声かけ、光は間接照明を、自然の風を入れること目的意識、現在世間で起きている話題は、ニュースと一緒にみたり生活感のある暮らしを目的としている。	事業所内の至る所に季節の花を飾り、戸外のプランターでも、草花を育てている。壁には、手づくり作品や暮らしの写真を掲示している。廊下の要所には、仲間で一緒に座れる椅子や、一人でもゆっくり過ごせる居場所も設けてあり、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うゲストを求めて、特養へ行くと2時間、半日と共に過ごしたり、独り静かになりたい時は、マッサージ付の部屋で休めます。施設全体を使用できる工夫があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の想いが一番詰まっている場所にする為、慣れ親しんだ物を沢山取り入れるよう工夫をし、大切な人との思い出の物、そこでの昔話が聞こえてくる、話をして下さる環境づくりを工夫している。	居室には、洗面台とクローゼットを備えている。慣れ親しんだ物、思い出のあるものを自由に持ち込み、手づくり作品や家族の写真を飾り、自分の部屋として、安心できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の分かりやすく表示し、徘徊のゲストも自然と戻ってきた所が、安心する食堂や、居室となる回廊となっており休息場所も、設けてある		